

令和5年度 学校運営連絡協議会実施報告書

1 組織

- (1) 名称「東京都立日野高等学校学校運営連絡協議会（全日制課程）」
- (2) 事務局の構成 事務局長（総務部主任） 計1名
- (3) 内部委員の構成
校長、副校長、経営企画室長、教務主任、生活指導主任、進路指導主任、保健主任、総務主任
1学年主任、3学年主任 計10名
- (4) 協議委員の構成
地域代表、地域有識者（大学教授、学習塾教室長）、近隣中学校長、近隣特別支援学校長、地域の関係機関職員（教育委員会）、地域の施設職員（浅川清流環境組合）、保護者代表（PTA会長、PTA副会長）、同窓会代表 計10名

2 令和5年度学校運営連絡協議会の概要

- (1) 学校運営連絡協議会（第1～3回）の開催日時、出席者、内容、その他
第1回 令和5年6月13日(火) 内部委員10名、協議委員9名
協議委員委嘱、委員紹介、学校経営報告・計画、本校の現状と課題の報告、意見交換、評価委員の選出
第2回 令和5年10月5日(木) 内部委員10名、協議委員6名
本校の現状と課題の報告、意見交換、学校評価アンケートの内容検討
第3回 令和6年2月9日(金) 内部委員10名、協議委員7名
本校の現状と課題・学校評価アンケート結果報告、学校評価の分析と提言、意見交換、評価票記入
- (2) 評価委員会の開催日時、会場、出席者、内容、その他
第1回 令和5年10月5日(木) 内部委員3名、協議委員1名
学校評価の基本方針の確認、学校評価アンケートの実施スケジュール及び設問の検討
第2回 令和6年2月9日(金) 内部委員3名、協議委員2名
学校評価アンケートを踏まえた提言の確認、学校運営連絡協議会への提案内容の確認

3 学校運営連絡協議会による学校評価（学校評価報告）

- (1) 学校評価の観点
「学校経営計画の検証」の観点で実施する。
- (2) アンケート調査の実施時期・対象・規模
 - ・12月 全校生徒 対象：926人 回収：859人 回収率：93%
 - ・12月 保護者全員 対象：926人 回収：676人 回収率：73%
 - ・12月 地域・住民 対象：50人 回収：6人 回収率：12%
 - ・12月 教職員 対象：59人 回収：59人 回収率：100%
- (3) 主な評価項目
学校運営、学習指導、生活指導、進路指導、特別活動・部活動、健康・安全、施設・設備・ライフ・ワークバランスなど。
- (4) 評価結果の概要（学校及び校長への意見・提言内容）
 - ・生徒は生活、進路、学校行事や部活動に関して肯定的傾向があるが、学習面では低い。昨年度8割が肯定的に回答した「家庭学習習慣が以前より身に付いてきている」は7割弱に留まり、学校生活がコロナ禍前に戻り、部活動が平常的に行われるようになったためと思われる。また、英語や数学の習熟度別授業について、9割が肯定的な回答をしており、丁寧で細やかな授業へのニーズが窺われる。
 - ・教職員の学習指導は9割近くが肯定的傾向にあり、DXや探究活動の推進についても、8割近くが肯定的である。然し、ライフ・ワークバランスや勤務時間の縮減については肯定的意見が5割8分に留まっている。
 - ・保護者は、学校生活には肯定的であるが、学習や進路関係の満足度は6割～7割程度と低い。
 - ・夏に新校舎が完成し、文化祭をはじめ学校へ来る機会が増えたこともあり、保護者の清掃・施設設備面への肯定的評価は、前年度の7割弱から8割に増加した。
 - ・地域の方々からは、生徒の身だしなみの良さや明るい学校生活を送っているという意見多いが、登下校中のマナーや自転車の乗り方について指摘された。
- (5) 評価結果の分析・考察（学校及び校長への意見・提言）
 - ・教職員は生徒による授業評価に基づく結果を受け止め、受験に対応できる学力を身に付けさせる授業改善を行う。新学習指導要領実施に向けて、深い学びができるよう学習指導方法を研究する。
 - ・教職員全員が一貫した指導方法で、頭髪、制服、遅刻等の生活や規律の指導について、継続して行う。
 - ・自転車の乗り方、交通ルール、ヘルメットの着用等、登下校時の公共の場所でのマナーの指導を継続する。
 - ・卒業後の進路や進路希望先の情報提供など、大学・短大・専門学校・就職・公務員のすべての分野において、今後も継続していく。また、三者面談、保護会や保護者向けの進路説明会を増やすなど保護者への情

報提供の場を設け、要望に応じていく。

- ・部活動の活動を効率的に行い時間の使い方を工夫し、学習と部活動の両立をめざす。
- ・自ら挨拶ができ、「日野高校に入学してよかった」と思える学校づくりを継続する。
- ・災害時には生徒の安全を優先し、家庭への速やかな連絡体制を整える。
- ・教職員の業務環境の改善をし、生徒や保護者が満足できる学校生活を構築する。
- ・オンライン環境の整備を引き続き行う。

4 学校運営連絡協議会の成果と課題（学校の自己評価へ反映）

(1) 学校運営連絡協議会を実施して得られた成果

- ・生徒の学びの保障に向けて様々な工夫を試行し実施できた。
- ・生徒の自主的な学習時間の確保を目指す。主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業の活用、教科を超えての授業参観などを行い、学習指導の改善に向けて取り組むことが必要であると認識できた。
- ・身だしなみ指導をはじめとする生活指導には一定の理解と評価がうかがえた。
- ・生徒自身が校則の意義を考え見直すべき点は見直すなど、生徒が主体的に取り組むよう働きかけた。
- ・保護者に向けての情報提供として、学校だより、ホームページ、SNS など積極的に活用してデータ配信を行うことができた。

(2) 学校運営連絡協議会を実施して明らかとなった課題

- ・オンライン授業の長所を生かし、対面型授業と組み合わせたハイブリッド方式の授業が期待される。
- ・校内研修などを通して教員の ICT の技術向上を目指す。
- ・教職員の働き方改革、とりわけ業務の縮減や効率化が必要である。
- ・生徒や保護者から校則の見直しを希望する意見もあり、生徒の自主的な取組を促す指導を引き続き行う。
- ・部活動以外の土曜日の活用の在り方を急ぎ検討し、多様な学びの場を設ける必要がある。

5 学校運営連絡協議会及び学校評価を活用した教育活動の改善事項（学校経営計画へ反映）

(1) 学校運営

- ・教員のライフワーク・バランスの実現のために、効率的な業務の推進に努める。

(2) 学習指導

- ・教員相互の授業参観、計画的な教科ごとの研修及び学校全体での校内研修を実施し、新学習指導要領について理解を深め、探究学習やDXを活用した指導法の工夫、改善に取り組む。

(3) 特別活動

- ・生徒の意欲的な取組を支援し、体育祭、文化祭、合唱祭の学校行事や修学旅行等の学年行事、生徒会活動、委員会活動を充実させる。また、部活動ガイドラインに則した活動指針を明示し、生徒・保護者に理解を求める等の十分な相互理解に基づいた部活動を推進する。

(4) 生活指導

- ・本校の生徒指導方針に基づき、指導内容の共通理解を図り、社会規範やマナーを育てるために、遅刻指導や身だしなみ指導、自転車乗車時のヘルメット着用等の安全指導の徹底を図ることを継続して行う。

(5) 進路指導

- ・土曜日の活用を積極的に図り、探究学習の取り組みを中心とした計画的・組織的な取り組みを推進し、三者面談や個人面談、進路に関する説明会、講演会を充実させ、希望進路実現に向けた進路指導を推進する。

(6) 健康・安全

- ・生徒総合支援を組織的に推進し、全教職員で生徒を見守る体制を構築する。
- ・体育的行事を利用するとともに授業内での補助的なトレーニングや部活動で体力を高める取組を進める。また健康講話や安全講習会の実施により生徒の健康に対する意識を高めることを継続して行う。

6 「学校がよくなった」と考える協議委員の割合

(1) 協議委員人数 7人

(2) 学校がよくなったと答えた協議委員の人数

そう思う	多少そう思う	どちらとも言えない	あまりそう思わない	そう思わない	分からない	無回答
3	2	2				

7 職員会議及び企画調整会議への協議委員の参加実績及び成果

- ・職員会議 0回（0人） ※西部学校経営支援センター支援主事 参加1回（1人）
- ・企画調整会議 0回（0人） ※西部学校経営支援センター統括支援主事保護者会 参加1回（1人）

8 その他

- ・保護者や地域のアンケート回収率を更に高めるために、質問内容や回答方法を検討する必要がある。